

## 達人リコメンドの四国（香川編）

### 高松（香川県高松市）

#### 1、ノスタルジー



香川と言えば、讃岐うどん？私にとっての香川は、『ノスタルジー』

高德線・昭和町駅横の1DKで一人暮らし、宮脇町のマルナカで買い物をして、御坊町の居酒屋で夜遅くまで騒ぐ。給料が入れば古馬場のライブハウス・LQでジャズを聴く。待ち合わせは、ワシントンホテルのロビーがお洒落で、お金が無くなれば、会社の近くの久保うどんでランチタイム。金銭的には裕福とは言えませんが、精神的には充実、友人にも恵まれ「高松、タカマツ、仲間かなっ♪」なんてどこかで聞いたことのあるフレーズに乗せて、当時を懐かしく思います。

#### 2、讃岐うどん



年明けうどん、うどんタクシー、原料の小麦は「さぬきの夢2000」なんて感じで、うどん文化が紹介されていますが、詳しく知りたい方は、百十四銀行でお金をおろして、宮脇書店でナイスタウンかTJ香川などのタウン情報誌を購入して、「恐るべきさぬきうどん」について研究し、自分好みの麺を食べさせてくれる店を捜してみてもいいでしょうか？

ただ、店に入るのは11時半から13時あたりで、注文は「釜あげ」か「ざる」・「ぶっかけ」あたりを選ぶのが賢い方法だと思います。お店側は、お昼の時間においしいうどんを食べていただくタイミングで麺を打っていますから、食べる側もその時間に合わすのが礼儀だと思いませんか。

また、うどん巡りツアーとかで、たくさんのお店で食べ比べたくて、何人かで一つのうどんをつつくの

は、やめて下さい。本当に店主が心を込めて打った讃岐の至宝を味わいたいなら、「冷やぶっかけ・大！」と叫んでしっかりお腹を起こしましょう！

### 3、モデルコース



昭和のノスタルジーは別として、香川を観光するなら、初日は、こんぴらさんの「奥の院」まで登って天狗にご挨拶、弘法大師・生誕の善通寺では、戒壇めぐりで、暗闇の中から幸福の扉をつかみましよう。日が高いうちに、高松まで移動。夜はトキワ新町か古馬場探検。必ずお気に入りの店を発見できると思いますよ。

翌日は屋島。まずは山上まで登って瓦投げ、足に自信があれば北嶺まで歩いて瀬戸内海を展望、休憩はイダコのおでんで決まり。ミステリーゾーンを下りて四国村へ、「かずら橋」を渡って「砂糖しめ小屋」などを覗いて四国の文化と歴史に親しんで、ランチは「わら家」で釜あげうどん。続いて栗林公園に移動して、鯉に餌をあげてバトルを楽しみましょう。ここは季節により見所が変わりますので、入場券購入時にオススメを聞いてみましょう。あとは五色台経由で坂出に向かいますが、牛鬼像がお出迎えの根香寺と白峯寺に立ち寄って、瀬戸大橋を展望。坂出から本四道に乗って、与島PAでお土産を買って帰るのが理想的です。



欲張りな人は、多度津で少林寺拳法を学び、白鳥で手袋を買って、庵治でセカチューのロケ現場を搜索、荘内半島を一周し桃太郎伝説を研究、最後は女木島で鬼退治～なんてマニアックな旅はオス



スメませんが、日本一面積の小さい香川県は魅力満載の地域だと勝手に主張します。



以上 平成22年1月9日記（旅は昭和61年4月～現在）

#### 4、瀬戸内海



三つ子、与、羽佐、岩黒、櫃石。これは、いわゆる児島・坂出ルートの瀬戸大橋の橋脚のある島の名前です。昭和63年、この橋が完成して本州と四国が、陸続きとなりました。JNRの宇高航路が廃止され、高チョン族と呼ばれる単身赴任で支店を支えた企業戦士も本土に帰り、大阪からも日帰り可能な地域となって、古馬場あたりの歓楽街も淘汰されました。

開通当時はこの橋を渡る観光客で四国が賑わいましたが、一時的なブームで終わり現在は安定と表現するのが適当なのでしょうか？開通以来20年、少なく見積もっても200回はこの橋を渡った私も、山上高くから眺望すれば、瀬戸内の自然と人工的な構造物が見事にマッチした雄大な景観に見入ってしまいます。

瀬戸大橋眺望のリコメンドの場所は、五色台休暇村。喫茶コーナーに腰を下ろして、ハチミツソフトなどを注文してゆっくりと島々を眺めるのが最高の贅沢です。



さて達人が今回オススメする場所は、アートな島々です。

しかも実力は未知数。今年(2010年)の海の日から100日間開催される瀬戸内国際芸術祭というイベントを応援したいと思っています。

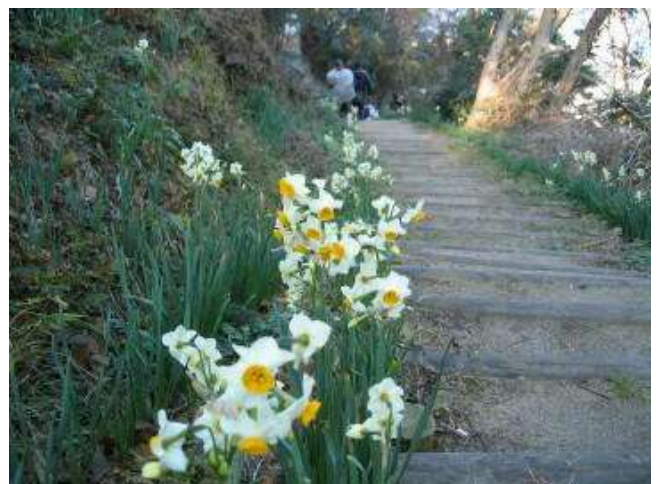
舞台は高松と周辺の七つの島。アートで瀬戸内を元気にしようというコンセプトで、地元では官民一体となって世界初の試みを盛り上げています。



観光地のメジャーリーグ・小豆島は、農村歌舞伎シアターのある芸どころの肥土山地区から中山地区にアートな散歩道を構築します。

桃太郎伝説の鬼ヶ島・女木島では民家をアートに。

映画「喜びも悲しみも幾歳月」の灯台と水仙郷が売りの男木島は、石積みの路地を飾ります。



産業廃棄物の不法投棄で有名になった豊島は、イメージアップ(投棄物は隣の直島の三菱マテリアルの工場処理しています)で水辺にアートが並びます。



サナトリウムの大島は「やさしい美術プロジェクト」で、名古屋の大学の手任せられます。

銅の精錬所が閉鎖された犬島は、演劇活動の拠点に。

アートと言えば地中美術館とベネッセハウスのある直島ですが、当然、今回のイベントのイニシアチブを取ります。

アクセスの拠点は高松。フェリーや高速艇に乗って海を越えるだけでワクワクしますし、旅をした気分になれると思いませんか？



まだ見ぬ瀬戸内国際芸術祭ですが、目指すところの「島々が持つ魅力とアートを掛け合わせ、瀬戸内海の島と海の魅力を世界に向けて発信し、地域の活性化と海の復権」は達成するのでしょうか。達人として、期待を込めて、瀬戸内国際芸術祭を勝手にリコメンドしたいと思っています。

今年の夏は瀬戸内においでまい！



以上平成22年1月29日記（旅は1月26日～27日）

[Top](#)  
[トップへ](#)

[Back](#)  
[戻る](#)



[達人リコメンドの四国（ウェルかめ編）](#)